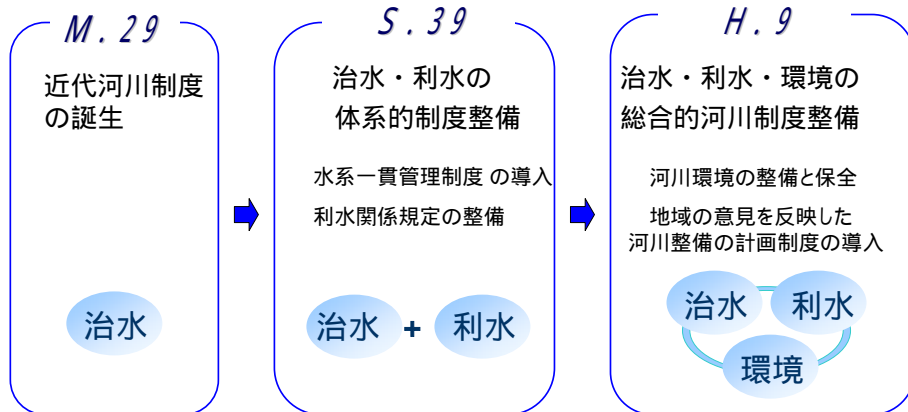


# 第1回五ヶ瀬川水系流域委員会

平成16年 4月19日

## 河川法の改正

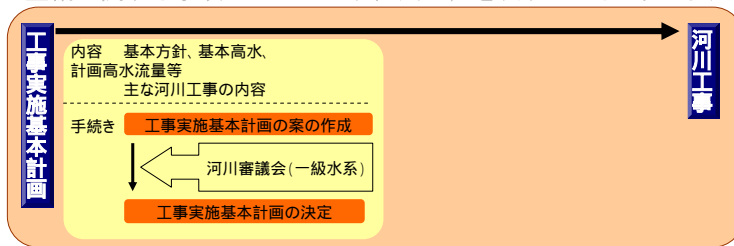
～ 治水・利水・環境の総合的な河川整備へ ～



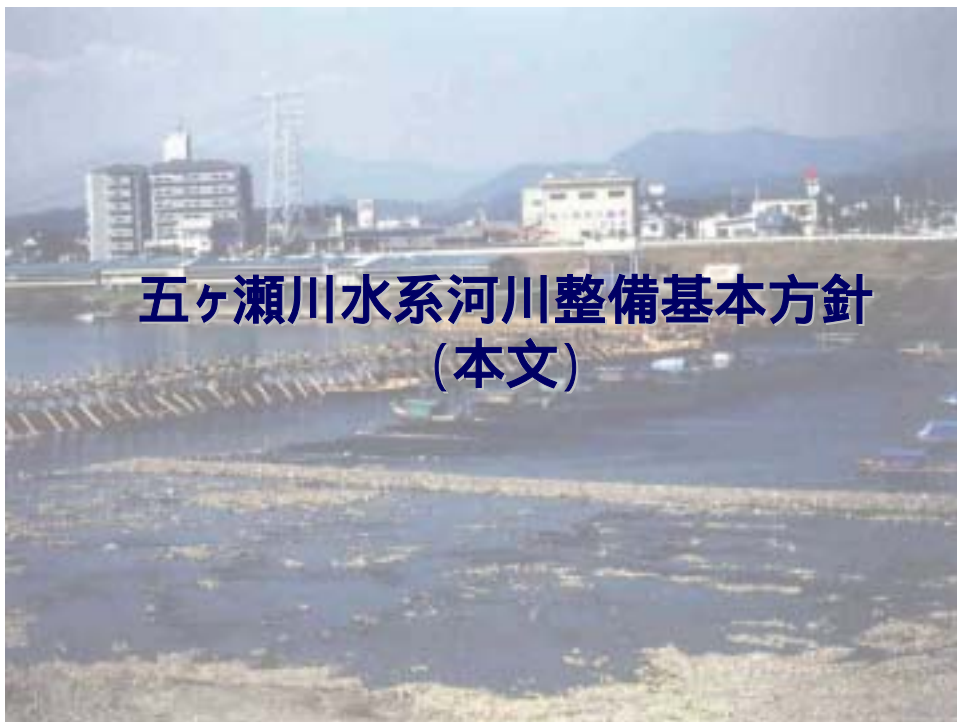
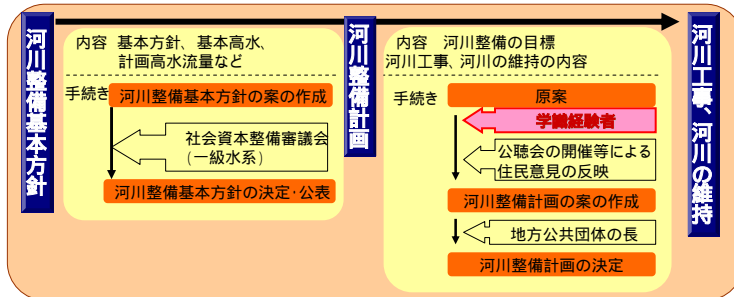
# 河川法の改正

具体的な河川整備に関する事項について地域住民の声を反映できるようになりました

旧制度

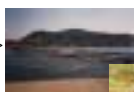


新制度



# 流域の豊かな自然

## <五ヶ瀬川のシンボル:アユ>



アユやな

10月～12月の2ヶ月間で、約35000人の観光客を動員している。

アユの産卵場

## アユつり

## <多様な自然環境と動植物>



高千穂峡



カモシカ



見立深谷



祖母傾山国定公園

見立深谷



良好な自然環境を有する植物群落と湿地(友内川)



アカメ(絶滅危惧類)



河口付近の干潟と河畔林

アカウミガメ(河口浜砂)

## 五ヶ瀬川のシンボル:アユ

- ・清流五ヶ瀬川のアユを求めて、全国の太公望達が集う。
- ・“アユやな(10月中旬～12月中旬)”は、毎年県内外から多くの観光客で賑わいを見せ、延岡の貴重な観光資源となっている。

## アユ関係集客数

北方町	人口5,100人	延岡市	人口12万4千人
川水流ヤナ		水郷ヤナ、岡元ヤナ	
H11	10,397	H11	35,000
H12	10,864	H12	35,000
H13	9,670	H13	35,000
H14	10,367	H14	35,000

約1万人 約3万5千人  
10月からの約2ヶ月間で人口に対する割合  
約4万5千人 ÷ 約12万9千人 × 100 = 35%

## 多様な自然環境と動植物

- ・祖母傾山国定公園や高千穂峡をはじめとする豊かな自然環境
- ・河口域の砂浜は、アカウミガメ(県指定天然記念物)の産卵場。
- ・干潟や河畔林は、サギ類をはじめとする鳥類の餌場・営巣地。
- ・河口域は「環境省重要湿地500選」に選定。
- ・コアマモ・アカメの生息の場
- 豊かな自然環境に配慮した川づくり

# 治水の歴史

## 治水事業経緯



## 計画の変遷

五ヶ瀬川は大正8年に準用河川に編入され、中小河川として県による改修が進められてきたが、昭和18年9月の台風による大災害を契機に直轄編入の要望が高まり、昭和26年5月に直轄河川となり、新河川法に基づき、昭和41年4月、工事実施基本計画を策定し現在に至っている。

## 大瀬川の改修経緯

昭和26年直轄改修以前の計画流量 3,000m<sup>3</sup>/sに対する改修は、昭和25年にほぼ既成しており、その後の計画流量の引上げ(4,500m<sup>3</sup>/s)に対しては、市街部の川幅不足から図2-2に示したとおり、主として引堤による河積確保が実施されてきた経緯がある。

## 五ヶ瀬川の改修経緯

延岡市街部を貫流していること、派川大瀬川とのHWLの整合等、改修当初から現在に至るまで、計6回にも及びHWLの変更を行うとともに、河道掘削による改修が行われてきた。

# 近年洪水の概要

・ 工事実施基本計画(昭和41年策定)  
 基準地点:三輪  
 計画規模:既往最大(概ね1/60程度)  
 基本高水ピーク流量6,000m<sup>3</sup>/s  
 計画高水流量7,200m<sup>3</sup>/s

↓

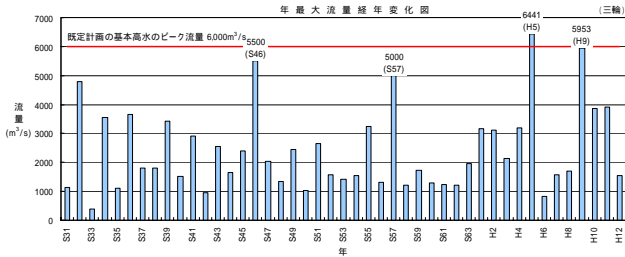
・ 近年、既定計画同等もしくは上回る洪水が発生

H5.8 6,441m<sup>3</sup>/s  
 H9.9 5,953m<sup>3</sup>/s

↓

・ 既定計画の治水安全度を現時点で評価すると概ねW=1/30と他の一級水系と比較して低い

**流量改訂が必要**



浸水区域図(平成5年8月洪水)

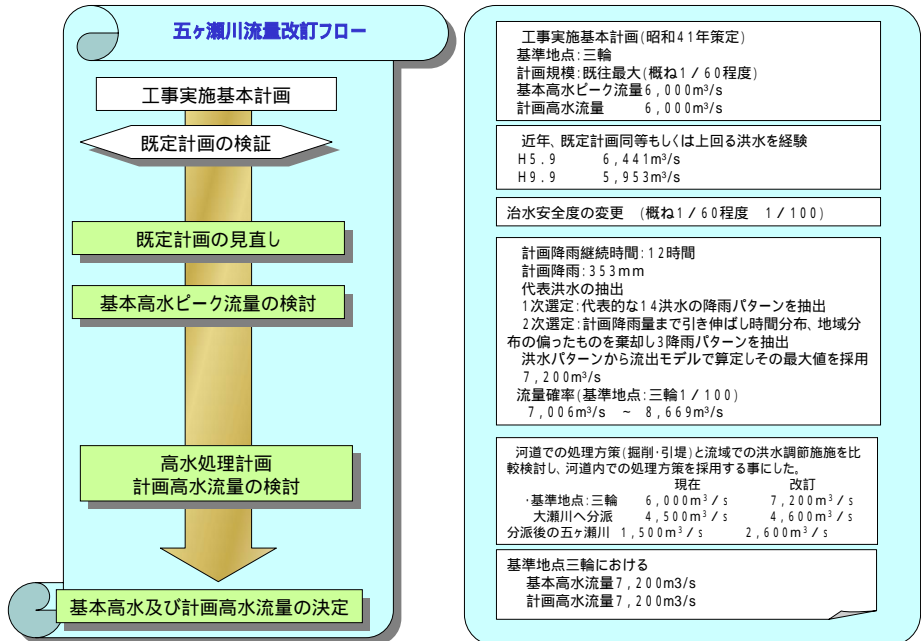
平成5年8月洪水  
(延岡市岡富地区)

浸水区域図(平成9年9月洪水)

平成9年9月洪水  
(延岡市東海町)

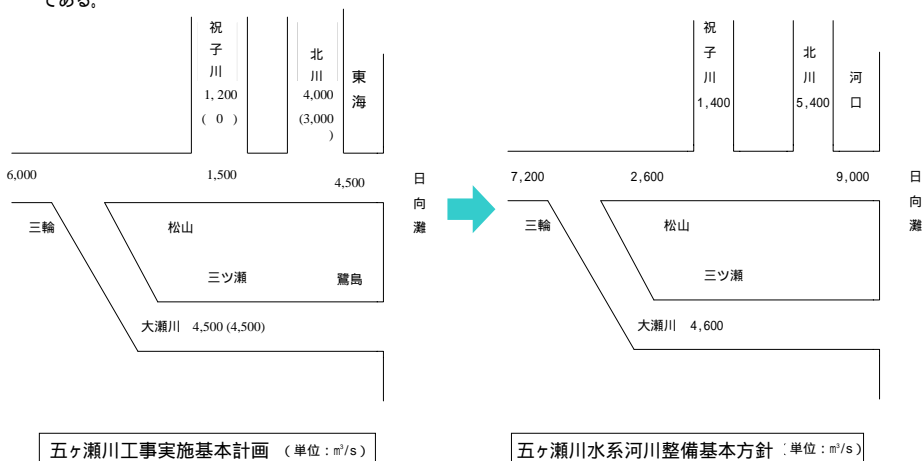
死者	1人
浸水面積	830.1ha
浸水戸数	1645戸

# 流量改訂フロー



# 洪水処理方針

河道での処理方針と流域での洪水調節施設を比較検討した結果、河道内での処理方針を採用する事とし、河床の維持、改修の実現性等から、それぞれの河川の対応可能流量は以下のとおりとなり、7,200m<sup>3</sup>/sの対応が可能である。



# 災害発生の防止

洪水時の五ヶ瀬川の水位を低下させるために五ヶ瀬川と大瀬川を適正に分離します。

## 五ヶ瀬川・大瀬川の適正分派



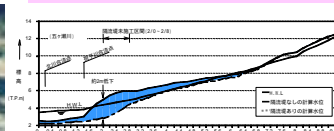
現在、洪水時には水位が高い大瀬川から五ヶ瀬川へと流入している。五ヶ瀬川と大瀬川の完全隔離を行う必要がある。

## 五ヶ瀬川・大瀬川の隔流

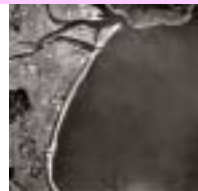


現在、洪水時には水位が高い大瀬川から五ヶ瀬川へと流入している。五ヶ瀬川と大瀬川の完全隔離を行う必要がある。

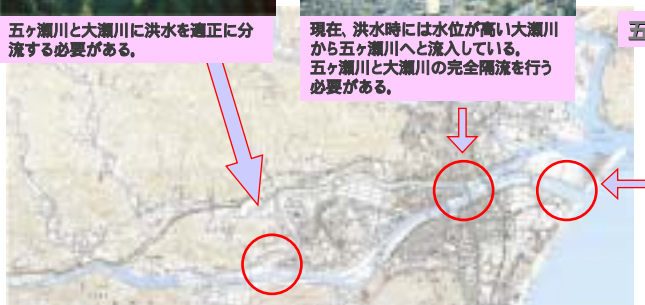
用排水の水位低下地帯図(平成24年6月洪水シミュレーション)



## 五ヶ瀬川・大瀬川の河口閉塞



大瀬川の河口部は、河口閉塞していることから、河口処理を行う必要がある。



## 正常流量

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持を行います。



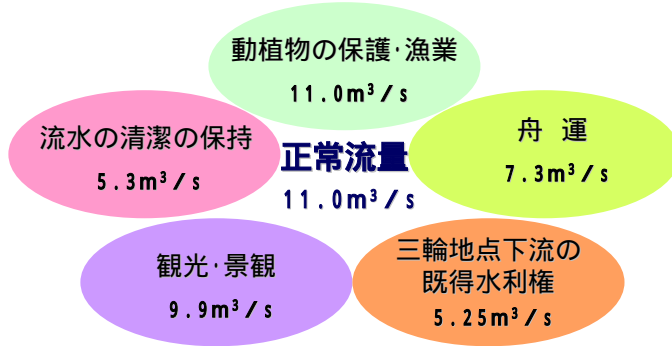
鮎漁



安賀多の瀬



旭化成



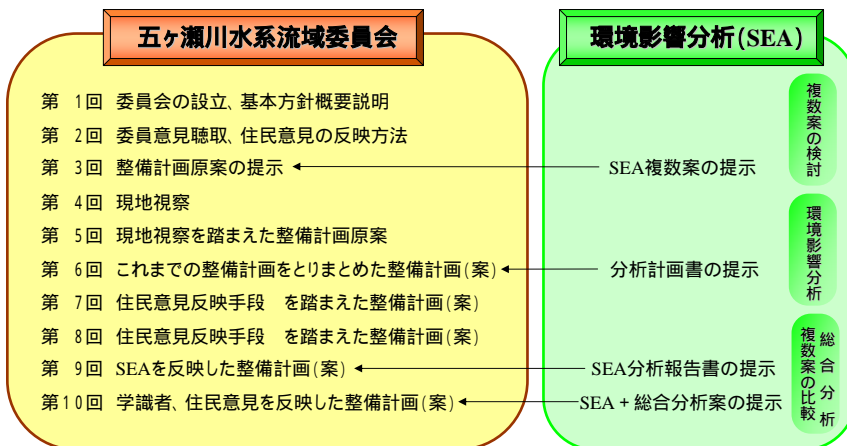
三輪地点における過去47年間の平均湯水流量は約15.4 m<sup>3</sup>/sとなっている。

## 環境影響分析(SEA)の流れ

### 環境影響分析

環境基本計画の中で河川整備計画の策定の際に環境面からの分析結果を意志決定に反映させることが記載されています。複数案に関する環境面からの分析は、各河川で試行を加えながら分析が進められていましたが、社会面・技術面からの分析と比較すると遅れていました。そのため、平成14年に「河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方」が取りまとめられ、より具体的に分析・検討を進めることとなりました。

環境面からの分析 生物の生息生育環境や親水性への影響 など



# 「五ヶ瀬川水系整備計画」策定までの流れ

